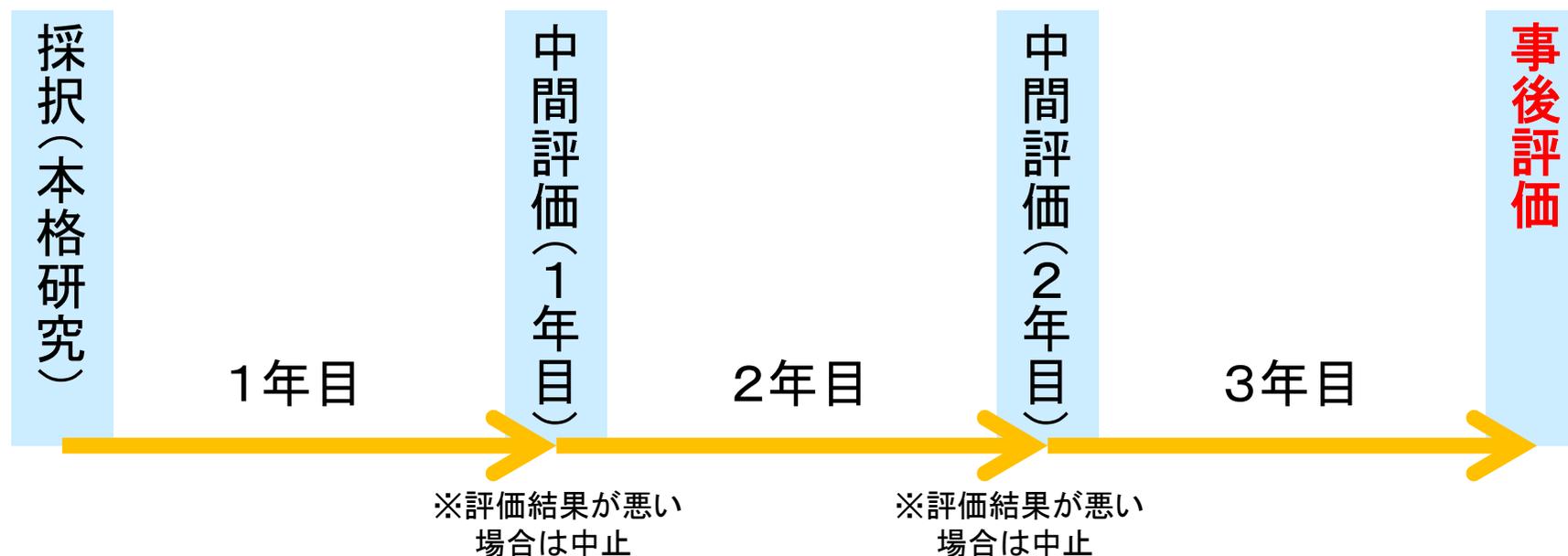


令和7年度終了課題の事後評価の実施方針案について (概要)

1. 本格研究の事後評価の位置付け及び目的

■ 位置付け

本格研究の採択～評価の流れ(研究期間3年の場合)



■ 目的

事後評価(本格研究)

- ・ 研究課題の目的達成度や研究成果等を適切に把握し、研究成果の道路政策への反映見込み等を評価
- ・ 今後の制度全体の評価や見直し等に活用すること

2. 事後評価の手順(スケジュール)(案)

① 研究終了報告書の提出 (3月～5月末)



① 書類の事前査読 (書面による評価) (~6月末)

- 評価分科会各委員による書類の事前査読。
(委員からの質問・コメントがある場合は、研究代表者へ事前に連絡)



② 研究評価会・研究成果発表会の開催 (7月頃)

- 各分科会ごとに研究評価会を開催。
- 分科会各委員は研究課題ごとの事後評価シートを作成。
- 各委員作成の事後評価シートを基に、研究課題ごとの事後評価(案)作成のための審議。



③ 事後評価(案)の作成 (7月末)

- 研究評価会后、分科会長が事後評価(案)を作成。



④ 事後評価の決定 (8月頃)

- 新道路技術会議において事後評価(案)を審議し、合議により事後評価を決定。



⑤ 事後評価結果の通知及び公表 (会議後)

- 研究代表者に書面にて事後評価結果を通知
- 道路局HP等において、成果報告レポート及び公表用資料と併せて事後評価結果を公表

3. 事後評価の視点及び基準(案)

■ 評価の視点

研究の 視点	研究目的の達成度	研究の目的に沿って研究期間内に目指した目標の達成度合いはどうか。
	研究成果	評価できる研究成果を上げたか。研究成果が当該研究分野等の発展に寄与できたか。
	研究成果の活用・発展性	得られた研究成果の活用や発展性などの今後の展望はどうか。研究成果の積極的な公表・普及に努めているか。
行政の 視点	道路政策の質の向上への反映見込み	研究成果の実務への反映見込み等、道路政策の質の向上に資するものとなっているか。
	研究費規模とその成果	配分された研究費規模に見合う、研究成果及び道路政策の質の向上への寄与となっているか。

■ 評価の基準

評点	説明
A	研究の目的に沿って研究期間内に目指した目標は達成され、十分な研究成果があった。
B	研究の目的に沿って研究期間内に目指した目標は概ね達成され、研究成果があった。
C	研究成果は一部に留まった。
D	研究成果があったとは言い難い。

4. 令和7年度終了課題の事後評価 対象研究テーマ(ソフト分科会)(案)

分科会	採択年度・番号	委託研究テーマ	研究代表者	研究概要
ソフト分科会	2023-1	デジタルツインによる冬期 道路交通マネジメントシステム の技術開発	北海道大学 准教授 高橋 翔	冬期道路環境をエッジコンピュータにより低通信量かつリアルタイムに収集しつつ、AI を活用してデジタルツインを構築し、道路交通マネジメントに反映することにより、冬期の人やモノの移動にかかる負担軽減、効率化を実現する。

5. 令和7年度終了課題の事後評価 対象研究テーマ(ハード分科会)(案)

分科会	採択年度・番号	委託研究テーマ	研究代表者	研究概要
ハード分科会	2023-2	局地的大雨に対応した事前通行規制基準の『時間的』・『空間的』高度化	京都大学 教授 岸田 潔	事前通行規制区間において、素因、誘因、崩壊事例により前処理した衛星解析から「潜在的危険斜面」の領域を可視化する技術を開発し、監視レベルを階層化する。「潜在的危険斜面」に対する浸透流・円弧滑り統合解析結果を学習したAIにより規制判断を高度化する。
	2023-3	衝撃履歴を受ける落石防護土堤の残存耐力評価法と土を利活用した合理的な復旧・補強の技術研究開発	名古屋工業大学 教授 前田 健一	堅牢でしなやかな環境調和型の道路斜面防災対策の実現に向けて、低コストで施工性・長期耐久性・復旧性に優れる落石防護土堤に着目し、落石捕捉後の残存耐力評価手法・土を利活用した補強技術・復旧時の技術選定方法に関する技術研究開発を行う。